

2 学年の栽培計画



育てたい能力

1 学年の栽培計画（66頁）に引用した学習指導要領の生活科の内容（7）については「2 学年にわたって取り扱うものとし、動物や植物への関わり方が次第に深まるようにすること」とあります。

とくに栽培をとおして、自分との関わりでものが変化していくこと、自分の行為とその結果とに関係をとらえることが大切です。中高学年のように客観的に自然をとらえ、因果関係を把握すると

いうことができなくても、「自分との関わり」で自然をとらえることが大切です。

さらにそのようなことを生活全体の中で考えていくために、育てる作物は地域でよく育てられているものを取り上げたいものです。



栽培する植物をどう選ぶか

ここでは、1 年と2 年に作物を便宜的に分けましたが、これらはどちらの学年で取り上げてもよいでしょう。

収穫したサツマイモから温床で苗を育てたり、

チューリップやヒヤシンスの球根を収穫したりして、次の学年へと引き継ぐと「生命への気づき」をうながす活動になります。

2 年生の10月にキャベツの定植かアブラナのたねまきを入れます。3 年生になってからのチョウの学習に必要です。2 年後半では次の学年からはじまる理科学習とのつながりを子どもたちに意識させたいものです。

（協力 / 毛利澄夫）

月	学期	関連する単元（生活科）	トウモロコシ	ミニトマト	キャベツ				
3	休	夏となかよし	● たねまき マルチ □ 収穫	▲ 植えつけ □ 収穫	▲ 植えつけ □ 収穫				
4									
5	一学期								
6									
7									
8	休								
9	二学期					生きものとなかよし			● たねまき
10									
11									
12	休								
1	三学期								
2									